

「理論編」については、次期学習指導要領が目指す、これからの時代を生き抜くために必要な資質・能力は何か、また、それらの資質・能力を身に付けさせるために必要な授業改善のポイントは何かなど、国の動向を踏まえ、津市の教育の目指すところを説明しています。

子どもたち一人一人の豊かな学びを実現！

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

授業改善

何を学ぶか

どのように学ぶか

- めあて・課題の提示
児童生徒が「やってみよう」と思えるようなめあて・課題になっていますか？
- 深い教材研究
めあて・課題を達成するための「教材」と「活動」が授業展開の中で適切に用意されていますか？
- 的確な「説明」「発問」「指示」
児童生徒の学びの中で効果的な「説明」「発問」「指示」になっていますか？
- 「つなげること」を意識した展開
児童生徒の発言やつづやきを大切に、他の児童生徒の発言とつなげながら授業を展開していくことを意識していますか？
- 「基礎」「基本」は教え、考え、活動させる授業展開のバランス
「教えるところ」と「考えさせるところ」、「活動させるところ」が、授業の展開の中にバランスよく位置付けられていますか？
- 力をつける「まとめ」と「振り返り」
「何がわかった」「何がわからなかった」かを振り返り、次の授業に活かしていますか？
- カリキュラムマネジメントとタイムマネジメント
学習規律が保たれた中で、リズムのある授業が展開されていますか？

授業評価

『確かな学力』を育むためには…
一人一人の教員が、授業力向上に
努め、日々の授業改善

授業力向上の構成要素

授業展開

- ① 学習意欲を高める『めあて』の設定
- 児童生徒の興味・関心を喚起
 - 考えたい『めあて』

- ② 児童生徒の『学び合い』の充実
- 自分で考え自力解決(個人思考)
 - ※考えの交流《ペア・グループ・一斉》
 - ※お互いを認め合い、尊重し合う集団
 - 一人一人が積極的に授業参加(集団思考)

- ③ 『振り返り』の活動の充実
- 「わかった」「できた」を実感
 - ※自己の変容を自覚
 - 新たな課題への意欲

授業づくりの基盤

すべての子どもたちが、「わかる・できる」を実感するための、工夫や配慮

カリキュラムマネジメント

学習の効果を上げる授業のリズム、タイムマネジメントを意識

児童生徒理解

- 個人として理解
- 集団として理解
- 集団との関わりから個人を理解

授業構成

学習のねらいの達成のための授業の綿密な構想(ねらいと学習活動が一貫したもの)

教材解釈

- 教材そのものへの理解・解釈
- 子どもの視点から教材を理解・解釈
- 教材を通して育てたい力を確認

児童生徒の学力向上

教員における授業スキルの継承 授業力の向上

多くの教員の参画
毎年の改訂作業実施

マニュアルを使った
研修会の実施

津市版授業改善マニュアル



全国学力・学習状況調査等の結果分析を活用して

学力の向上をめざした授業づくり

児童生徒質問紙の経年比較		H26	H27	H28
授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていた	小学校	75.0	85.5	90.5
	中学校	55.6	77.2	88.7
	自校			
児童生徒の間に話し合う活動をよく行っていた	小学校	82.5	84.3	82.6
	中学校	74.6	85.1	85.3
	自校			
授業の最後に振り返り活動を行っていた	小学校	66.3	72.9	79.0
	中学校	45.8	57.0	65.7
	自校			

※自校と書いてある欄に、自校の数値を記入し、授業改善等にご活用ください。

「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていた」、「授業の最後に振り返り活動を行っていた」と回答している児童生徒が増加しています。

授業の見直しを持たせるための「めあて」の提示や「振り返り」活動を取り入れることにより、今日の授業で何が身に付いたのかが実感できます。

「今日は、何を学んだか、何がわからなかったか」などを振り返る活動については、授業の最後に行うため、時間が確保できていない状況がうかがえます。授業のタイムマネジメントが必要となってきます。

教えて考えさせる授業づくり

学校質問紙の経年比較		H26	H27	H28
習得・活用・探究を見通した指導方法の改善・工夫	小学校	67.9		90.6
	中学校	72.7		90.9
	自校			
授業の中で目標(めあて・ねらい)を提示	小学校	92.4	94.3	96.2
	中学校	86.4	81.9	100
	自校			
児童生徒の発言や活動の時間を確保	小学校	92.4	88.7	94.4
	中学校	100	100	95.5
	自校			
学級やグループで話し合う活動を実施	小学校	92.5	90.6	94.4
	中学校	81.9	95.5	90.9
	自校			
授業の最後に学習したこと振り返る活動を実施	小学校	77.3	86.8	88.7
	中学校	77.3	72.7	95.4
	自校			

先を見通すことが難しい社会の中で、新しい社会のあり方を創造することができる資質・能力を子どもたちに育むためには、教育に携わる教員一人一人の力量を高めていく必要があります。

「実践編」では、授業づくりに必要な要素(児童生徒理解、授業構成、教材解釈、授業展開、授業評価)や授業づくりの基盤(板書、ノート指導、机間指導、教育環境)等について、具体的な事例等を紹介しています。

一人一人の子どもたちが、授業の中で輝くために…

学校全体で心のユニバーサルデザインの視点を大切に、子どもたちの興味関心を引き出し、一人一人の子どもたちが輝き、「できる!」「わかる!」を実感できる、ワクワクするような授業を目指しましょう。

◆授業構成のポイントチェック例◆

- 学習指導要領の目標や内容をふまえて、児童生徒の実態に応じた単元目標を設定している。
- 単元目標に応じた評価基準を設定している。
- 1単位時間の授業において、日常生活や教科等の学習との関連を意識した授業を構想している。
- 個別に支援を要する児童生徒の配慮事項等も考え、授業を構想している。

◆一人一人の学習状況を見取る視点◆

- 意欲(学習への意欲はどの程度か)
- 理解(理解はどの程度か)
- 思考(自分で考えようとしているか)
- 技能習得(技能の定着はどの程度か)
- つまずきの状況(どこでどのようにつまずいているか)
- 学習習慣(どの程度身につけているか)
- 学習速度(学習の進め方は適切か)

◆板書◆

- 教師と児童生徒の思いを表現するキャンパスです。
- その一時間の学習の過程と、思考の流れを示します。

◆ノート◆

- 成長の記録です。
- 自分の思考を表現するキャンパスです。
- 学習の振り返りのためのツールです。

◆机間指導◆

- 一人一人の学習状況を把握するための指導です。
- 一人一人の困り感や達成感を把握するための指導です。

児童生徒理解

授業構成

授業づくりの基盤

教材解釈

教材研究

児童生徒観
教材開発
教材解釈
指導観

教材解釈は、指導者と教材との対話であるのに対して、教材開発は教材を介在して、指導者と児童生徒との対話です。

めあての工夫

【例1】教科書の見出しそのままのもの

【めあて】栄養を考えた朝食にしよう
C「栄養のある物って何があるかな」
C「野菜をいっぱい使うといいのかな」
C「栄養バランスなんて、なんだか、難しいんだ」
【ポイント】
・どうしても、「栄養」という言葉にとらわれて本時のねらいである「家族のふれ合い」というめあてに迫ることは難しい。

【例2】めあてに工夫を加えたもの

【めあて】家族が元気もりりになる朝食メニューを考えよう
C「ピーマンが嫌いな弟のために、ピーマンを細かく刻んで、このまゑ実習をした炒り卵にしようかな」
【ポイント】
・それまでに学習した知識や技能を使い、「家族のふれ合い」「家族が元気になる」ことを思い浮かべ、めあてに迫ることができる。

できる!わかる!を実感

授業展開

授業評価

確かな学力の定着

授業力向上

評価を生かした授業改善

授業評価を取り入れたPDCAサイクル

◆授業展開のポイント◆

- 「めあて」を必ず設定しよう。
- 主体的な学びを促す工夫をしよう。
- 発問や指示の意味を理解し、吟味しよう。
- 「振り返り」を充実させよう。